

## 第 3 回国連防災世界会議について

### 国連防災世界会議とは

グローバルな防災戦略について議論する国連主催の会議。第 1 回（1994 年、於：横浜）、第 2 回（2005 年、於：神戸）ともに我が国がホストした。第 2 回会議では、2005 年から 2015 年までの国際的な防災の取組指針である「兵庫行動枠組（HFA）」が策定された。

### 第 3 回国連防災世界会議の開催

#### 【開催概要】

- ・ 2015 年 3 月 14 日（土）～18 日（水）に仙台市で開催予定。
- ・ ホスト国の担当大臣（内閣府防災担当大臣）が議長を務める（予定）。
- ・ 各国首脳、閣僚、国際機関代表、認証 NGO 等 5 千人、全体で 4 万人以上の参加を想定。
- ・ 現行の兵庫行動枠組（HFA）の後継枠組が策定されるとともに、我が国にとっては、東日本大震災の被災地の復興の現状や防災に関する我が国の経験、知見を世界に発信し、国際貢献を行う重要な機会。

#### 【会議の目的】（2013 年 12 月国連総会決議より）

- a) 兵庫行動枠組の実施状況のレビューを完了させる。
- b) 各国・地域の戦略・制度・計画から得られた経験、提言、地域協定を検討する。
- c) 2015 年以降の防災枠組（ポスト兵庫行動枠組）を採択する。
- d) ポスト兵庫行動枠組の定期的実施状況評価の在り方を決定する。
- e) ポスト兵庫行動枠組実施のための協力のあり方を特定する。

#### 【これまでの主な動き】

2012 年 12 月	国連総会決議（第 3 回世界会議の日本開催）
2013 年 2 月-5 月	開催都市の公募、選定（仙台市に決定）
5 月 14 日	閣議了解（開催都市及び開催時期を決定）
12 月	国連総会決議（第 3 回世界会議の開催地・日程・運営手法）

### 第 3 回国連防災世界会議の開催に向けた準備プロセス

#### 【政府間準備プロセス】

- ・ 世界各地の 10 か国及び日本によるビューローが本年 2 月中旬に設置され、世界会議開催に向けた政府間の準備プロセスが始まる。
- ・ 本年 7 月及び 11 月に、政府間準備会合がジュネーブで開催され、第 3 回世界会議プログラムの作成・承認、ポスト兵庫行動枠組の草稿の作成などを行う。

#### 【地域プラットフォームの開催】

- ・ 本年 5 月から 6 月にかけて、世界各地域で地域プラットフォームが開催され、各地域内における兵庫行動枠組（HFA）実施のレビューや後継枠組に関する議論が行われる。
- ・ アジアについては、アジア防災閣僚級会議が 6 月にタイ・バンコクで開催予定。

## 【今後の主な予定】

2014年 6月	第6回アジア防災閣僚級会議（於バンコク）
7月	国連主催 第1回政府間準備会合（於ジュネーブ）
11月	国連主催 第2回政府間準備会合（於ジュネーブ）
2015年 3月	第3回国連防災世界会議開催（於仙台市）

## 参考

### 第1回国連防災世界会議

1994年5月23日～27日、横浜市

「より安全な世界に向けての横浜戦略」を採択

主な成果：

- ・ 災害被害の軽減による持続可能な経済成長という考え方を初めて示す
- ・ 各国の防災体制の確立、地域レベルの協力体制の確立を目指す
- ・ アジア地域における成果として、アジア防災センターの設立（1998年）

### 第2回国連防災世界会議

2005年1月18日～22日、兵庫県神戸市

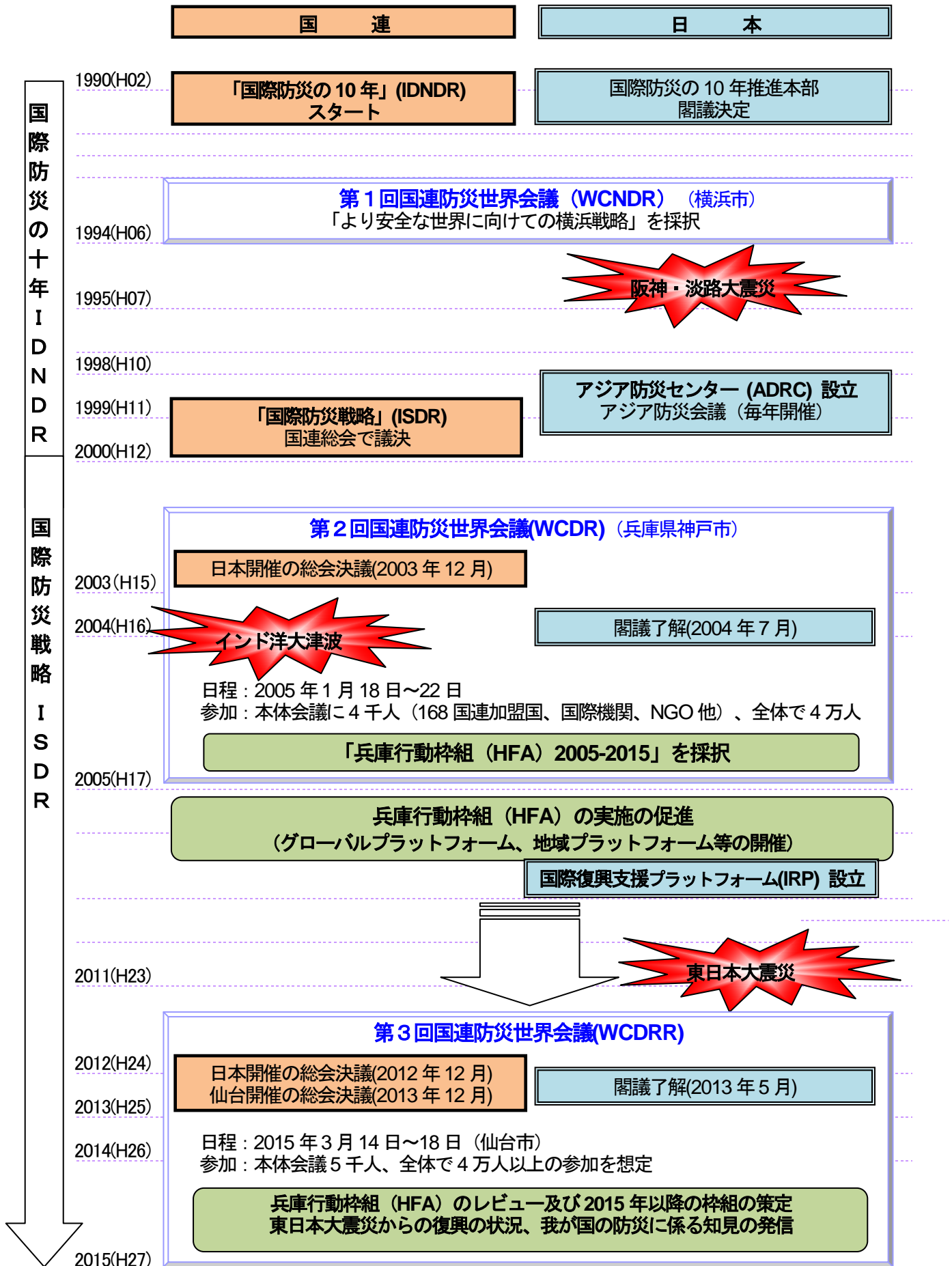
168国連加盟国、国際機関、NGO等約4千人が参加

「兵庫行動枠組 2005-2015」を採択

主な成果：

- ・ 今後10年間に取るべき、5つの優先行動を示したより実践的な合意内容
- ・ 防災グローバル・プラットフォーム会合の発足
- ・ 国際復興プラットフォーム（IRP）等のテーマ別プラットフォームの設置

# 国連防災世界会議の経緯



国際防災の10年 IDNDR

国際防災戦略 ISDR



# 第3回国連防災世界会議

平成27年(2015年)3月14日(土)～18日(水)

### 本体会議

- ・国連主催
- ・ハイレベル会合、政府間交渉等
- ・ポスト兵庫行動枠組の策定、ハイレベル宣言等

### 関連事業

- ・日本政府、地元自治体等が主催
- ・シンポジウム、展示、被災地視察等
- ・防災、復興に関する知見の発信等

## 国連防災世界会議 開催の特徴

### 1. 東北の被災県、大学、経済界、NPO・NGO等との連携

東北の被災県(青森、岩手、宮城、福島)、宮城県内の被災自治体、大学、地元経済界、NPOやNGO等との連携。会議開催時には、これらの機関と連携した関連事業等を実施。

⇒2013年10月には官民連携の地元準備組織「第3回国連防災世界会議仙台開催推進協議会」を設立  
⇒仙台・東北の復興や防災の取り組みを専用ホームページで発信。今後英語サイトもOP予定。

### 2. 本体会議の会場として、新コンベンション施設を活用

本体会議の会場として、仙台国際センター及び隣接地に新設する「(仮称)国際センター駅周辺地区コンベンション施設」を活用。新施設は、2014年3月着工、同年12月竣工予定。

### 3. 関連事業を市中心部や東北の被災各県で実施

シンポジウム・セミナー・展示などの関連事業は、本体会議会場に近接する東北大学川内萩ホールのほか、市内の各公共施設で実施。あわせて、東北の被災各県でも同時開催を企画。

### 4. 多様な視察プログラムや歓迎事業

沿岸部の復興プロジェクト、東北の魅力ある観光資源など多様な視察プログラムを準備。地元の食材・文化体験なども提供。



仙台国際センター



外観

新展示施設

内観



仙台市の開催支援・  
情報発信のページ





# 地元関連事業の展開案

## 総合フォーラム

●東日本大震災の経験・教訓等についてテーマとし、中核的な事業として検討。

## シンポジウム・セミナー

- シンポジウム・セミナーは、多様な方々の参画を想定し、複数会場を準備。
- 東北4県でもシンポジウム・セミナーを実施予定。
- 「市民協働」「女性と防災」などの特色あるテーマを実施

## 総合展示

- 総合防災展では、被災自治体が一体となって東北の防災・復興に関する展示を実施。
- 民間企業とも連携して、防災産業展を別会場で同時開催予定。

\* 仙台市内において予定している施設

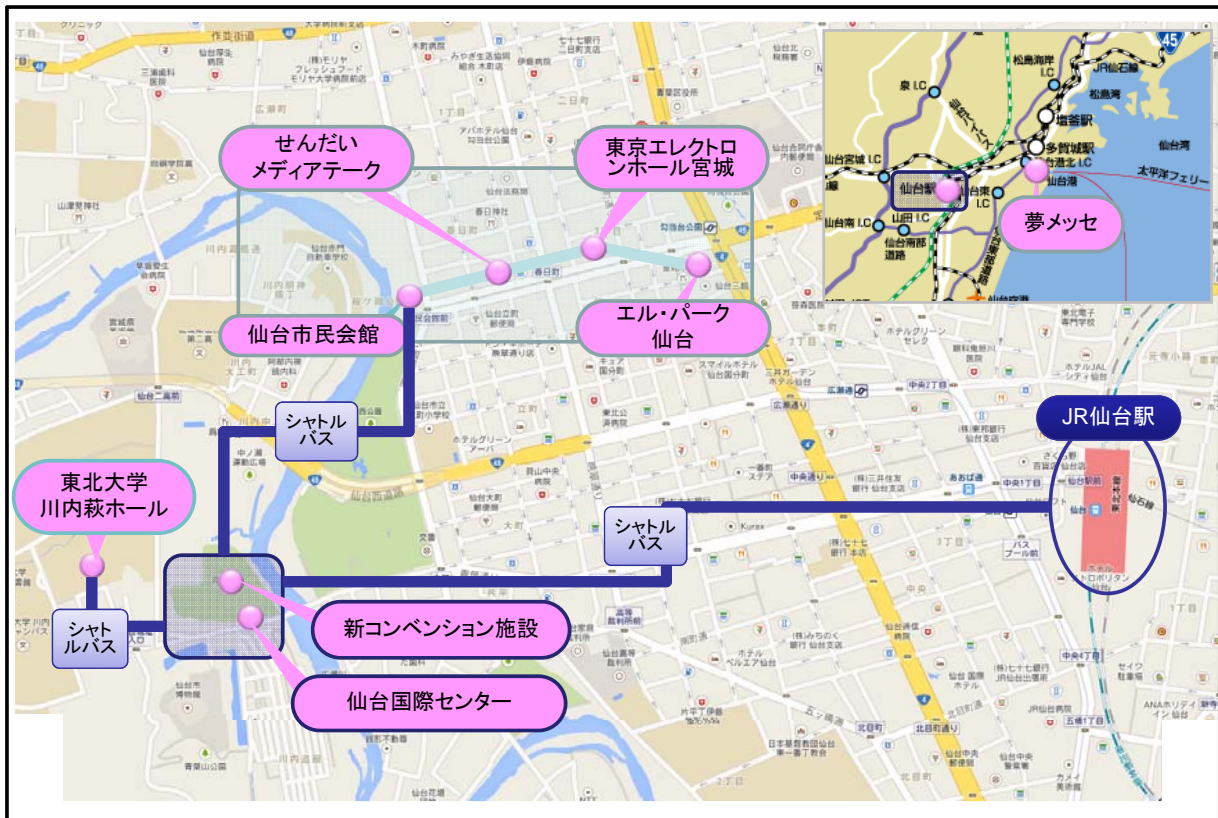


エル・パーク仙台  
(女性と防災 テーマ館)



## 会場予定施設の配置 (仙台市内について)

○ 会場予定施設





### World Conference on Disaster Risk Reduction

2015 Sendai Japan

- ・仙台市の推薦を経て、日本政府と国連ISDR事務局により決定。
- ・災害に対して強靱(レジリエント)な社会に向け、人々が共に手を携えて行動を起こすイメージを表現。
- ・5つの色は「兵庫行動枠組2005-2015(HFA)」の5つの優先行動を表現。
- ・世界会議の公式資料や関連する様々な広報物などに使用。